

【 スクールロイヤー講演会 】

6月9日、現役弁護士様を講師にお招きして、法律の観点から考える「いじめ」に関する講演会を開催しました。講演での質疑応答も活発に行われました。講演後に行った全校生徒の皆さんの振り返りから、一部感想や意見、質問等を紹介します。

- いじめの定義について知ることができた。法律や犯罪に関することも知れたし、下手したら犯罪になったり、被害者の人を自殺に追い込んでしまうかも知れないと思った。これからは、自分の言動や行動に気をつけたいと思う。
- いじめの法律に関わった教育を受けたので、次は自分や他人の人権についての教育を受けたいなと思いました。
- 今日はいじめについてで、いじめは暴力や悪口だけだと思ったけど、振られて心を痛めても、法律上では成立すると知って驚きました。
- (いじめられている)人の「大丈夫」は助けて欲しい時に使うのもあると思います。いじめられている人の「大丈夫」は大丈夫じゃないと思います。
- 普段の暮らしのささいなことでも「いじめ」になることを初めて知ってびっくりしました。相手や周りの人に迷惑や嫌な気持ちにさせないように、日々気を付けようと思いました。
- ぼくは今までいじめなどが起きると毎回学校外の人に来て事情聴取などをされるものだと思っていたけど、あまり来ることはないと思っていてびっくりしました。今までは警察がきて、検事検察がしらべて、判決が下されると思っていたので、一瞬どうやって処罰が下されるのだらうと思いました。いじめを法律的視点で見ることでも分かることもあると知れて大変良い機会になりました。
- 相手が嫌だと思ったら、いじめになることが分かった。裁判で訴えられると処罰されると思っていたけど、内容によっては、損害賠償や、退学、先生からの指導になると知った。いじめによって亡くなったり、ネットの匿名を利用してしながらひぼう中傷をしている人がいたりするので悲しいなと思いました。話を聞いて、ふざけてしたことがいじめだったりするのでこれから気をつけていきたいです。
- 相手が嫌だと思ったら、いじめになることが分かった。裁判で訴えられると処罰されると思っていたけど、内容によっては、損害賠償や、退学、先生からの指導になると知った。いじめによって亡くなったり、ネットの匿名を利用してしながらひぼう中傷をしている人がいたりするので悲しいなと思いました。話を聞いて、ふざけてしたことがいじめだったりするのでこれから気をつけていきたいです。
- いじめは、生徒と生徒の間で起こることで、された側が精神的苦痛を感じ、それが長期にわたっておきたり、大人数でそういった行為を行うと、それはいじめになり、罰になる場合もある。そしていじめになってしまう前に、少しのことでも相手に謝り、いじめをしている人を見かけたりされたら、勇気を出して、学校の先生や自分の親、いじめ相談窓口に相談することが大切。また、ふざけと思って相手に接してもいじめだと思っていることがあるので、疑われる行為はしない。そして、最近は一生涯残ってしまうネットいじめが多く、デジタルタトゥーと呼ばれるいじめもあるのが分かった。
- いじめは長期にわたってなぐったり、けったりするものと言っていたけど、長期とはどれぐらいですか。
- 話を聞いて、いじめとふざけの違いは難しいなと思いました。周りからみて、いじめじゃなくても本人はすごく傷ついていたり、逆に、周りには隠して いたりしていることもあると思うので、難しいなと思いました。自分は冗談のつもりでも、相手はすごく傷ついてしまったりすることが実際に自分にもあったので、気をつけていきたいなと思いました。
- 今回の話を聞いて、いじめの定義がすごく広くてびっくりしました。そのいじめを受けた人が心身の苦痛を感じるだけでいじめは法律上成立するということが知れてよかったです。いじめの定義などというものは、今までしっかり学習したこともなかったし、考えたこともなかったのだからためになりました。いじめは、児童間のことでも、学校側も保護者も責任を負うことがあるなど今までは考えたことすらないことを知れたのでよかったです。
- 法律のことについて詳しく知ってから、いじめとの関連について話していただいたので、とても分かりやすかったです。法律は社会生活を円滑に送るためのルールで、違反すると制裁・損害賠償・刑罰が課せられることが分かりました。定義では、いじめになっても実際に罪にならないこともあることが分かりました。抽象的な定義であるので、犯罪かどうかの区別が難しいことも分かりました。ですが、犯罪にならなくても、相手が苦痛を感じるようなことがないようにしていかなければならないと思いました。
- 私は、いじめってネットや直接のイメージがあって、でも謝れば終わりやとずっと思ってたけど、法律の定義っていうもので、いじめかいじめじゃないかを見極めると初めて知りました。普段何気ない言動で相手を悲しませたり、苦しませたり、するのだと知って、私は顔にも言動にもよく出るのですごく気を付けようと思いました。ネットも言葉も簡単に人を傷つけられ、謝ったとしても傷ついた人は生きている以上思い出すことが何回もあるし、忘れたくても忘れないので、自分の過去を振り返ってみると相手を傷付けた事がいっぱいあるのでこれからは気を付けようと思いました。弁護士の仕事も良いなーと思いました。
- 講演で出てきた具体例が本当に身近に起こってもおかしくないものだったので説明がとても分かりやすかったです。またネット上でのいじめでグループラインに入れずに仲間外れにすることがあるのは聞いたことがあったけど、ステータスメッセージまでいじめの方法として使われるのは初めて知ったし、誰のことを言っているかが分りにくいからとても陰湿だなと思いました。



【 お知らせ 】

きたる 7月8日(土)、のいちふれあいセンターにおいて第73回「社会を明るくする運動」決起大会が開かれます。その会場で本校3年生の別役夏輝さんが、昨年度の「社会を明るくする運動」(香南市)作文コンテストで、最優秀賞を受賞した作文の発表を行います。

第72回「社会を明るくする運動」(香南市)作文コンテスト最優秀賞受賞作品 「立ち直りについて」 香我美中学校 別役 夏輝

今は毎日のようにテレビなどで、犯罪、事件についてのニュースを目にする。犯罪と一括りに言っても、詐欺や窃盗、暴行、殺人、など多種多様なものがある。まずは、それらの犯罪を犯す人についてだ。もちろん犯罪はいけないことだが、理由があることも少なくない。ほとんどは身勝手なものだが、同情したくなるようなものもある。その度に思うのが、なぜ犯罪をしてしまったのか。例えば、家庭が経済的に厳しく、万引きをしてしまったとする。万引きをする以外に道はなかったのかもしれない。そうなると、万引きをせざるを得なくなった社会に問題があると思う。こうした家庭へは支援を続けていってほしいと思った。しかし万引きは犯罪だ。それを犯す前にもう一度考え直してほしい。

次に犯罪をしてしまった人の、立ち直りについてだ。犯罪をしてしまった人は、差別の眼で見られることもある。テレビなどで放送されていたらなおさらそうだろうと思う。例えば、「あのテレビでやってなかった?」「警察に捕まったらしいよ。」という会話。テレビで放送されていたのだとしたら、このような話が聞こえてきてもおかしくはない。だが、そのために犯罪をしてきたひとにとっては、生きづらさを感じているのかもしれない。もちろんテレビでもそれらのニュースを放送するなというわけではない。でも、犯罪人も一人の人間だ。やはり、信用できないこともあると思う。何でもかんでも真面目にするととは限らない。それは犯罪をしてしまった人が悪い。だから、少しずつ少しずつ信用を重ねていくしかないだろう。

やはり、犯罪はいけないことだが、犯罪者には立ち直りも必要だ。本当に反省しているのなら、真面目に働き、信用を回復させていこうと思う。そうなれば、今までと同じように暮らせるようになると思う。犯罪をした人でも、一人の人として社会に復帰できるような、世の中になればいいと思う。